■観光・レクリエーションの振興

本町は、馬追丘陵とそれに連なる広大な農地といった美しい農村景観を有し、地元の食材を活用したファームレストランをはじめ、カフェや農産物直売施設などが数多く立地していることから、町外から多くの観光客が訪れております。新型コロナウイルス感染症の影響から観光客数は減少傾向にありますが、終息を見据え、インバウンドを含めた新たな観光客層の誘致に向け、観光協会とも連携し、準備を進めてまいります。

また、町有観光施設につきましては、民間資金の活用も検討し、更なるサービス向上を図るとともに、グリーン・ツーリズム事業を推進し、自然の豊かさや新鮮な食、健康や癒しを満喫できる観光地づくりを進めてまいります。

さらに、姉妹都市である奥州市及び友好親善都市である須賀川市との交流事業においては、物産展を引き続き実施するなど、相互理解、地域の振興、経済交流に努めてまいります。

■企業誘致・雇用対策

これまで本町では、道内主要都市を結ぶ陸上交通の要衝であるという地理的優位性がありながらも、思うように企業立地に繋げられていない状況にありました。しかし、道央圏連絡道路の南長沼ランプまでの開通に伴い、本町の地理的優位性、潜在力が改めて注目され、企業進出の相談が増加しております。

本町としては、引き続き、遊休町有地の洗い出し及び活用方法の検討を図るとともに、工業団地につきましては、未利用地解消のため、地権者に対し活用予定などのヒアリング等を行った上で、進出希望企業とのマッチングに努めます。

今後は、町主導の誘致活動も積極的に行い、雇用機会の創出及び雇用者の確保も同時に進めてまいります。

また、地域の関係機関が連携した「南空知通年雇用促進協議会」等を活用し、雇用に関する情報収集、意見交換等を引き続き行ってまいります。

5 多様なひとと文化を育むまち

子どもの社会性・人間性を育てるとともに、誰もが心豊かで生きがいをもてるまちづくりを推進してまいります。

■生涯学習の充実

本年度から「第３期長沼町生涯学習推進計画」がスタートします。

本計画の理念である「学び、行動し、成果を分かち合うまちづくり」の実現に向け、個人の学びから一歩踏み出し、学びの成果が学校教育や社会、地域などにおいて行われる多様な学習活動に生かされるよう、生涯学習を推進してまいります。

■教育の振興

学び・行動し・成果を分かち合う「ながぬまっ子」を育む町独自の義務教育ビジョンと連動した教育環境の整備を行ってまいります。

また、教育振興に関する施策につきましては、町と教育委員会で組織される「総合教育会議」において、綿密に協議・調整を行い、共通認識に基づき、総合的かつ計画的な推進を図ってまいります。

■学校教育の充実

「確かな学力」、「豊かな心」と「健やかな体」を育み、「生きる力」を身に付けられるよう、小中学校が地域と共に目指す子ども像を設定・共有し、その実現を図るため、９年間を通じた教育課程を編成し系統的な教育を行う小中一貫教育を実現させ、新たな教育活動に対応する学校建替への取り組みを進めてまいります。

また、昨年度に国のＧＩＧＡスクール構想を受け、全ての児童生徒へのタブレット端末の導入と、高速通信ネットワークの環境整備を行いました。本年度からは、この情報基盤を活用した、習熟度別学習指導や学力向上対策の強化を図ってまいります。

学校給食では、厳しい衛生管理に基づき、安全で安心な給食の提供に努めるとともに、生産者団体等と連携した地元食材の地産地消を、引き続き進めてまいります。

■高等学校に対する支援

生徒に選ばれる魅力ある高校づくりを期待しており、町の支援としては、２間口の定員堅持を目的とし、各種検定料やパンフレット作成費などの助成を継続するとともに、本年度からデマンドバスを南幌町へ路線延伸する新たな交通網を整備することで、長沼高校への進学を希望する生徒の掘り起こしを図ってまいります。

■社会教育の充実

様々な学習活動を通じて自ら行動するために必要な知識を習得し、その成果が地域づくりの実践につながるよう、生涯各期の学習機会の充実、学校・家庭・地域が連携した子どもの健全育成を推進してまいります。

図書館につきましては、「長沼町子どもの読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書習慣の定着と生涯学習の情報発信の拠点として、幅広い資料の収集を行い、町民が利用しやすい読書環境づくりに、引き続き努めてまいります。

■社会体育の充実

「長沼町スポーツ推進計画」に基づき、家庭、学校、地域が連携し、子どもの体力、運動能力向上に努めてまいります。

また、スポーツによる交流を推進し、健康で活力ある地域づくりに取り組んでまいります。

さらに、長沼町スポーツ推進委員会や各スポーツ団体と連携し、町民のニーズに応じた各種スポーツ大会の開催など、気軽にスポーツに親しめる環境づくりを進めてまいります。

■文化の振興

子どもたちをはじめ町民が本町の文化や歴史に興味・関心を抱き、郷土愛がかん養されるよう、学習機会等の充実に努めてまいります。

また、町民の文化活動を支援し、豊かな地域社会づくりにつながるよう、引き続き各文化団体を支援してまいります。

埋蔵文化財は本町の大切な財産です。埋蔵文化財が損なわれることのないよう関係機関と連携し保存・保護に努めてまいります。

6 健全な行財政運営で活気あふれるまち

行財政基盤の安定した、町民と行政の協働で築く魅力あるまちづくりを進めてまいります。

■行財政活動の推進

町民皆様の声を町政に反映させるため、「まちづくり懇談会」や「出前講座」等の施策を再構築し、地域との情報共有及びコミュニケーションの促進を図り、町民と行政との「協働のまちづくり」を推進してまいります。

あわせて、まちづくり包括連携協定企業のほか、多くの企業・団体との連携を深め「官民連携によるまちづくり」の拡大、充実にも取り組みます。

さらに、町のブランド力と地域力を向上させ、活力あふれるまちづくりを実現するため、移住促進、観光振興、企業誘致、子育て支援、ふるさと応援寄附など行政の様々な取り組みに加えて、町民や町内事業者による特色ある取り組みも含めた、横断的かつ総合的なプロモーションを展開することで、町の魅力を効率的・効果的に発信してまいります。

7 ひとが集まり持続可能なまち

多様なひとが集い、まちの課題をともに考え、未来へ繋ぐ持続可能なまちづくりを進めてまいります。

■コミュニティ活動の促進

持続的にまちづくりに寄与する町民主体の活動団体に対し、ながぬま創生町民提案プロジェクト支援事業により、活動の基盤形成を支援してまいります。

■人材の育成・地域間交流の推進

今後将来住みやすいまちづくりを進めていくうえで、国際化に対応したグローバルな人材育成を図ることは大変重要であります。

本年度も国内外派遣研修事業を継続するほか、新たに実施するながぬま創生町民提案プロジェクト支援事業において、青少年活動の支援も行い、地域活性化に資する人材育成に取り組んでまいります。

さらに、タンチョウも住めるまちづくりにおいては、鶴居村との子ども交流事業に継続して取り組み、地域間交流を通じて歴史や文化に対する知見を深めるとともに、ひとと自然が共生するまちづくりの浸透、未来に引き継ぐ人材育成につなげてまいります。

■魅力的な地域圏の形成

「さっぽろ連携中枢都市圏」及び「オール北海道ボールパーク連携協議会」などの広域的な連携も進めながら、将来にわたって活力を維持していく施策を積極的に取り組んでまいります。

これらに加えて、中心市街地活性化事業をより具体のものとし、学校等公共施設の再配置や郊外観光施設に多く訪れている観光客を中心市街地に呼び込む方策等、本町の核となる市街地区域の活性化を進め、町民や関係機関が一体となって持続可能なまちづくりを推進してまいります。

以上、令和３年度における、私の町政執行に関する所信と基本的な方針について申し上げましたが、引き続き行財政の簡素化、効率化を図るとともに、透明性、自浄性を確保し、自らの行政能力の向上に努め、住民福祉の向上のために責任ある行財政運営に努めてまいります。

私は、産業振興や企業誘致、移住定住などの本町独自の『ながぬま創生』に取り組み、人口減少を抑える「人口の安定化」対策を積極的に行い、いつまでも安心して住み続けられる豊かなまちづくりを目指し、全力を傾注してまいる決意であります。

今後とも、町議会議員各位をはじめ町民皆様のより一層のご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げ、施政方針とします。